

一体型階段灯 コーナータイプ ひとセンサ 段調光 非常用照明器具・階段通路誘導灯兼用型 (電池内蔵形)

リモコン自己点検機能付

(一般屋内用)

保管用



| 品番 | 器具タイプ |
|------------------|-------------|
| NNCF(H)44135 LE9 | 30分間タイプ1灯相当 |
| NNCF(H)44155 LE9 | 30分間タイプ2灯相当 |

・上記()内は加工品番です。(以降、加工品番の記載を省略します。)

・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

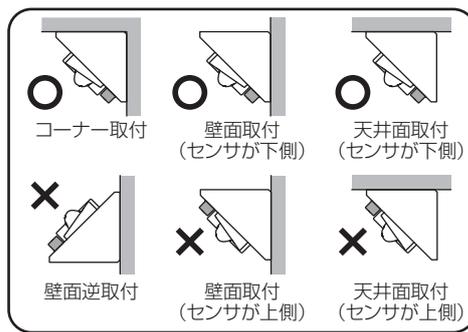
施工説明

工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

警告

- 施工は、施工説明にしたがい確実に行う。
施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧(定格電圧±6%)、周波数で使用する。
指定外の電源電圧・周波数で使用すると感電・火災の原因となります。
- 水平天井直付・壁面横取付専用です。他の取付けはしない。落下の原因となります。
- 非常用光源部のレンズはガラス製のため、取り扱いに注意する。
破損によるけがの原因となります。
- 常用光ユニットのカバーに衝撃を与えない。
破損した場合、感電・火災の原因となります。
- 蓄電池を短絡・分解したり火や水に投入しない。
破裂・やけど・感電・火災の原因となります。

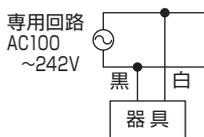


注意

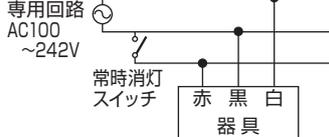
- この器具は一般屋内専用です。直射日光の当たる場所、雨水のかかる場所、風の強い場所、湿気が多い場所、腐食性ガスの発生する場所、振動の強い場所、外の風やエアコンの冷風が直接当たる場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 一般屋内でご使用の場合でも、器具周囲に硫黄成分が存在する場所では使用しないでください。光学性能に影響を与える場合があります。(一部の食品や薬品、紙類などには硫黄成分が含まれます。また、車の排気ガスにも硫黄成分が含まれます。)
- 周囲温度は、5~35℃で使用してください。指定外の周囲温度で使用すると、蓄電池の劣化、ちらつきや短寿命及び非常点灯しない原因となります。
- 寒冷地等で外気に通ずる場所に設置した場合、非常点灯時間が極端に短くなる恐れがあります。やむを得ず設置する場合は、非常点灯時間の点検を頻繁に行ってください。(少なくとも半年ごとの点検は必要) 自己点検用リモコン(別売)をご使用頂けると、点検が簡単となります。
- 電源方式により騒音(うなり)が大きくなる場合がありますので、以下の配線を行ってください。
 - ・三相電源を使用する場合は、必ず接地側を器具の端子台のN側に接続してください。
 - ・電源と器具間に片切りスイッチを設ける場合は、必ず非接地側(充電側)に取り付けてください。
- この器具の電源は、専用回路にしてください。
- 階段通路誘導灯として使用される場合、常時、連続点灯してください。常時、消灯して使用される場合は、事前に所轄消防署の了解を得てください。消灯される場合は、自動火災報知設備との連動が必要なため、誘導灯用信号装置等を用いて消灯してください。
- 電源と通電せずに、蓄電池を接続したまま放置しないでください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。
- 48時間充電後、非常点灯の確認をしてください。充電しないと非常点灯しません。
- 常用光ユニットのカバーはポリカーボネート製のため、直射日光の当たる場所や蛍光灯が近接する場所などの紫外線の多い場所、ヘキサンやアセトンなどの有機溶剤が使用される場所では使用しないでください。カバーの劣化・破損の原因となります。
- 器具の取り付け、取り外しは手袋などの保護具を使用してください。けがのおそれがあります。
- 器具本体を端部のみで持たないでください。変形・破損の原因となります。

配線種類

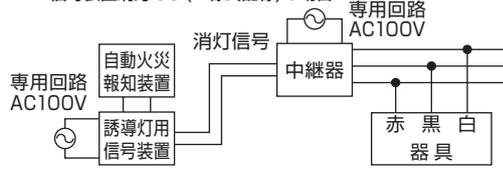
- A・自火報連動による
常用光ユニット100%点灯なし
・消灯なし(2線式配線)の場合



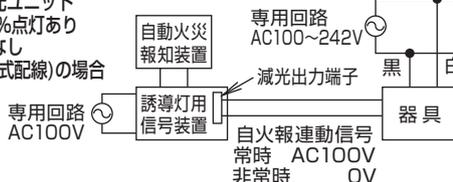
- B・自火報連動による
常用光ユニット100%点灯なし
・スイッチ消灯あり(3線式配線)の場合



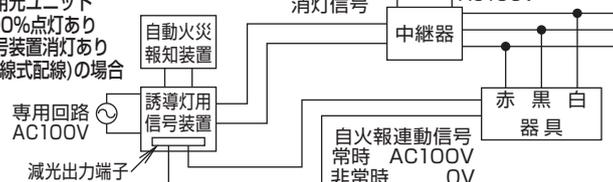
- C・自火報連動による常用光ユニット100%点灯なし
・信号装置消灯あり(3線式配線)の場合



- D・自火報連動による
常用光ユニット
100%点灯あり
・消灯なし
(2線式配線)の場合



- E・自火報連動による
常用光ユニット
100%点灯あり
・信号装置消灯あり
(3線式配線)の場合



施工上のご注意

- ・壁の当たりがない場合や柔らかい壁の場合は天井面との隙間が大きくなります。天井面との隙間が気になる場合は壁面の補強や器具背面の当たりを設けてください。
- ・バーコードリーダーの機種によっては器具付近で使用した場合、読み取り感度が鈍くなる場合があります。この場合には、器具との距離を離すか遮蔽するなどの対策を講じてください。
- ・虫の飛来が多い場所で使用される場合は、常用光ユニット内に虫が侵入する恐れがあります。このような場合は、直管LED非常用照明器具などの器具をお勧めします。
- ・センサ検知に関する注意事項は、(センサ検知の注意) (5ページ) をご確認ください。

各部のなまえと取付方法

- ・取付板は、壁面施工時と天井面施工時で取付方向が異なります。
- ・本体は、必ずセンサが下側になるようにして取り付けてください。
- ・器具背面図は4ページをご確認ください。

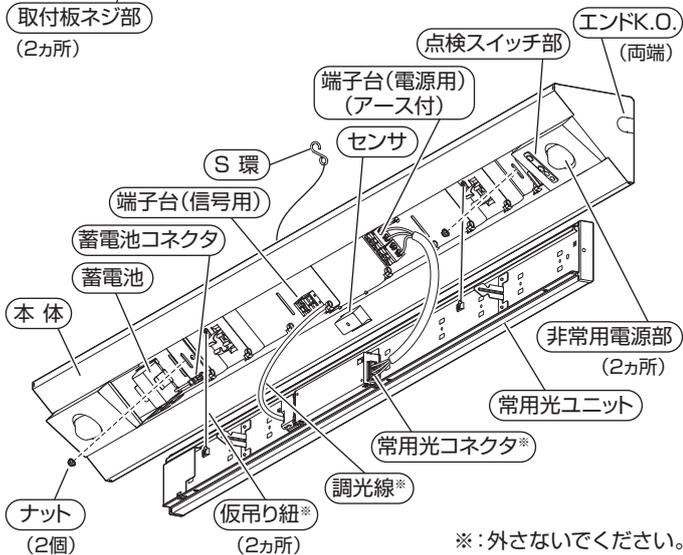
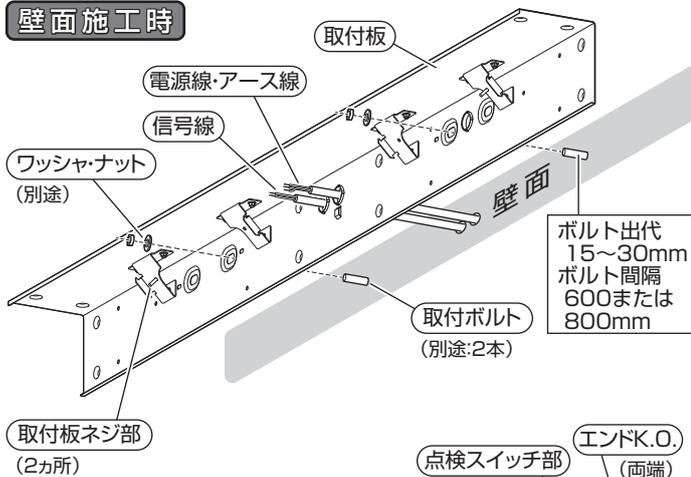
保護チューブ

(同梱)



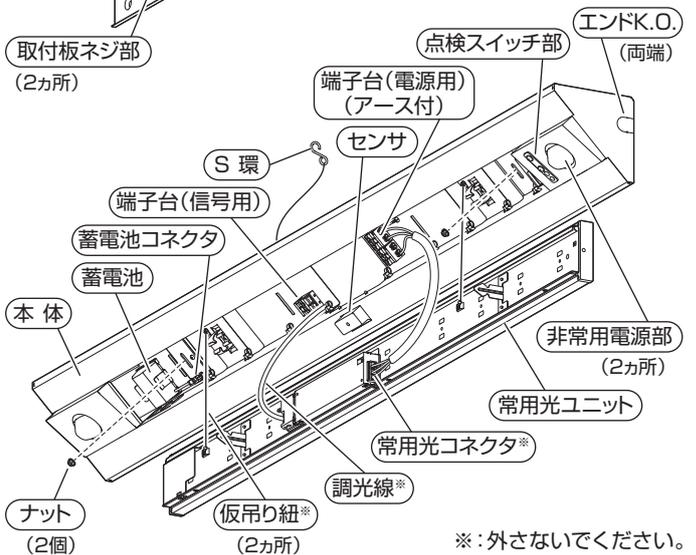
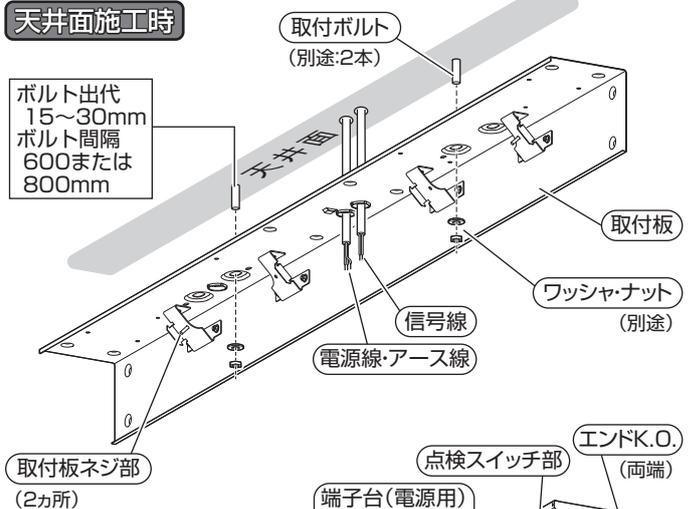
◎エンドK.O.から配線する場合のみ使用

壁面施工時



※:外さないでください。

天井面施工時



※:外さないでください。

警告

施工は、施工説明にしたがい、確実に進行。施工に不備があると、火災・感電・落下の原因となります。常用光ユニットの取り付け・取り外しは必ず電源を切る。感電の原因となります。

注意

器具の取り付け、取り外しは手袋などの保護具を使用してください。けがのおそれがあります。

1 取付前の確認

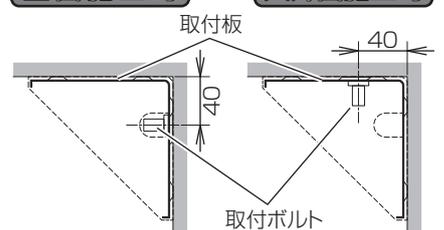
- ・既設器具取り替えの場合、周辺機器の電気容量を確認する。
- ・器具質量(5.5kg)に十分耐えるよう、取付ボルト取付部の強度を確保する。(取付ボルト(別途:2本)は、W3/8またはM10を使用する。)不備があると器具落下の原因となります。

- ・器具を壁際(天井際)に施工する場合、取付ボルト中心が壁面(天井面)から40mmになるよう配置してください。不備があると器具落下の原因となります。

注)天井と壁の角部に見切縁等の障害物がある場合は、障害物の端部から40mmにボルトを配置してください

壁面施工時

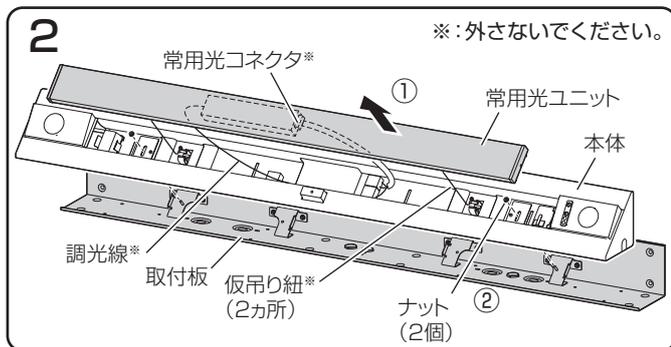
天井面施工時



各部のなまえと取付方法(つづき)

2 常用光ユニットと本体の取り外し

- ①常用光ユニットをまっすぐ引き抜いて本体から取り外す。
(仮吊り紐、常用光コネクタ、調光線は外さないこと。)
- ②ナット(2個)を外し、取付板から本体を取り外す。
・1カ所本体内に未固定の結束バンドがありますが不具合ではありません。そのままご使用ください。



3 取付板の取り付け

- ・電源線・アース線を取付板の電源穴から、信号線を取付板の信号用穴からそれぞれ引き込んでおく。
 - ・ワッシャ・ナット(別途)で取付ボルト(別途:2本)に取付板を確実に取付ける。(推奨トルク値:1.5N・m)
- 取り付けに不備があると器具落下の原因となります。

4 本体の取り付け

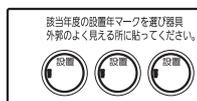
- ①センサを下側にし、S環を図の方向から取付板に引掛けて本体を仮吊りする。
 - ②取付板引掛け部(4カ所)に本体を差し込み引掛ける。
 - ③取付板ネジ部(2カ所)にナットを締め付け、取付板に本体を固定する。(推奨トルク値:1.0N・m)
- 取付方向を間違えるとセンサが正常に動作しません。取り付けに不備があると器具落下の原因となります。

5 電源線・信号線・アース線の接続

- ・(電源線・信号線の接続方法)(6ページ)により確実に接続を行う。
 - ・電源線・信号線・アース線を確実に接続する。
 - ・端子台の容量は11Aです。(送り機能付)
 - ・D種(第3種)接地工事が必要です。
 - ・エンドK.O.をご使用の場合は(エンドK.O.のご使用について)(4ページ)により確実に接続を行う。
- 接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、感電・火災の原因となります。

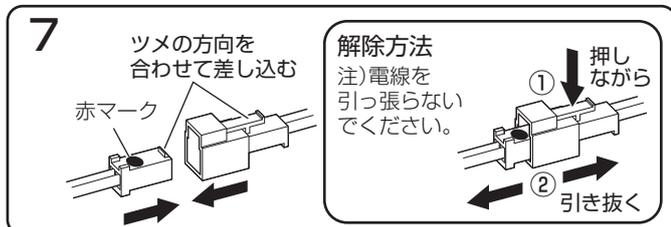
6 設置年マークの貼り付け

- ・器具内に貼り付けられている設置年マークの該当する年度を、器具の外郭に貼り付ける。

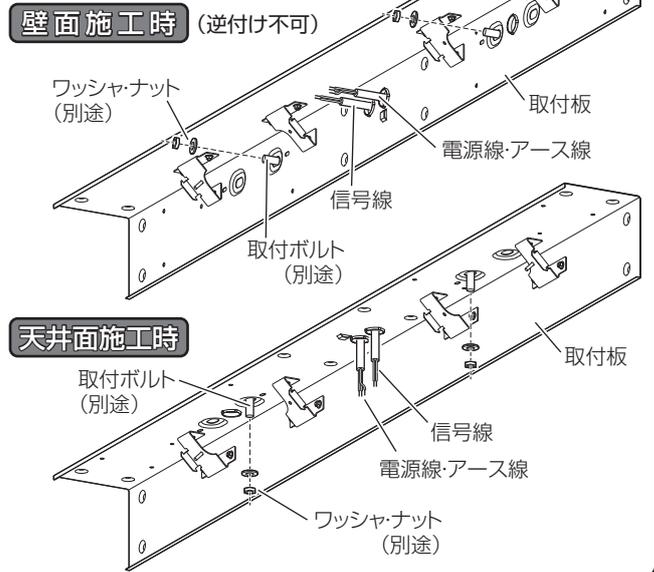


7 蓄電池コネクタの接続

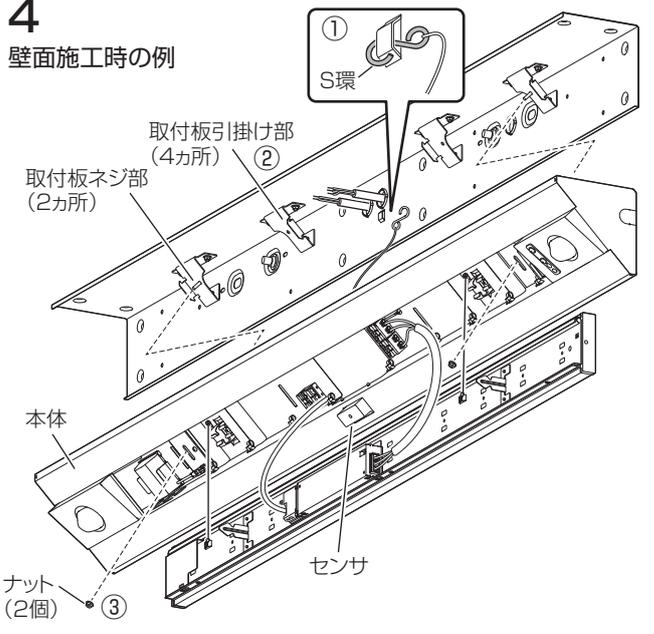
- ・蓄電池コネクタの方向を合わせ確実に奥まで差し込む。方向を間違えると器具が故障します。接続が不完全な場合、非常点灯不良の原因となります。
 - ・電源通電までに長時間かかる場合はコネクタを接続せず、通電後にコネクタを接続してください。
- 蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。



3 図を参照し取付板の方向を確認してください。

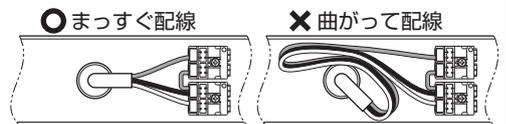
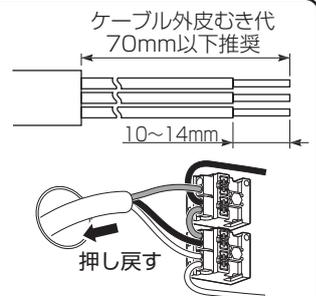


4 壁面施工時の例



5

- ・電源線・信号線・アース線 適合電線(単線): φ1.6, φ2.0
- ・電源線接続後、余分な電源線は常用光ユニットとの干渉を防ぐため電源穴へ押し戻すか、電源線を押さえて処理すること。
- ・電源穴と端子台の間は曲げずにまっすぐに配線すること。



- ・余分な電源線を器具外に戻せない場合、適切な長さで切断すること。
- 不備があると常用光ユニットの電源と干渉し電源線損傷による感電・火災の原因となります。

各部のなまえと取付方法(つづき)

8 常用光ユニットの取り付け

- ・金具の位置を合わせて
常用光ユニットを本体にまっすぐに押し込む。

9 電源の通電

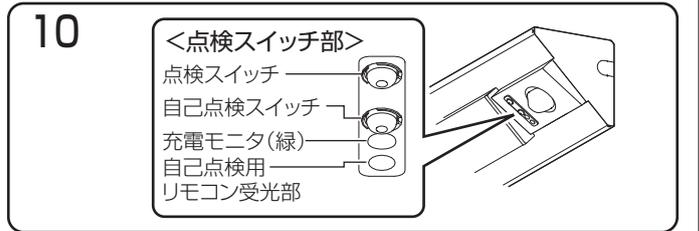
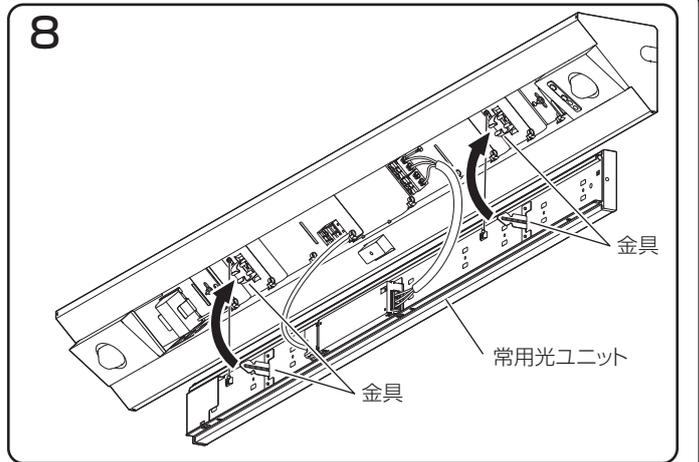
- ・電源を通電させる。

10 点灯確認

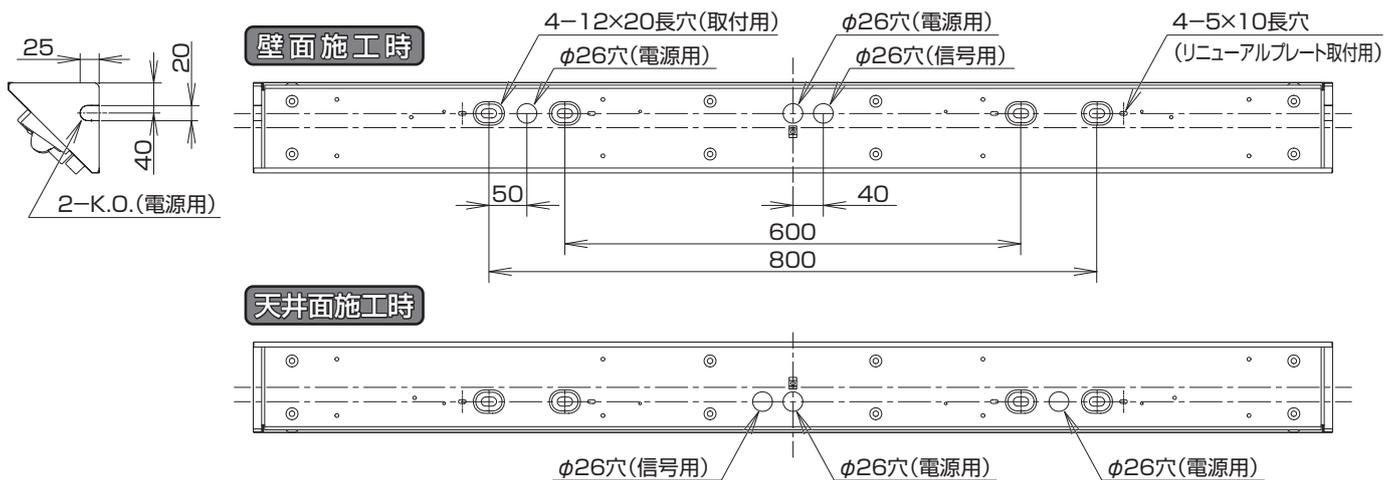
- ・電源通電状態で常用光ユニットおよび充電モニタ(緑)が点灯するか確認する。
- ・48時間充電後に点検スイッチを押し、非常点灯するか確認する。
蓄電池は設置後通電し充電しないと非常点灯しません。
正常に動作しない場合は(故障かな?と思ったときは)
(11ページ)をご確認ください。

11 センサの動作確認

- ・**(センサ動作説明)**(5ページ)を参照し、
実動作で正常動作することを確認する。
正常に動作しない場合は**(センサが正常動作しないときは)**
(6ページ)の項をご確認ください。
点灯確認後、長時間電源を通電しないときは
蓄電池コネクタを外してください。
蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

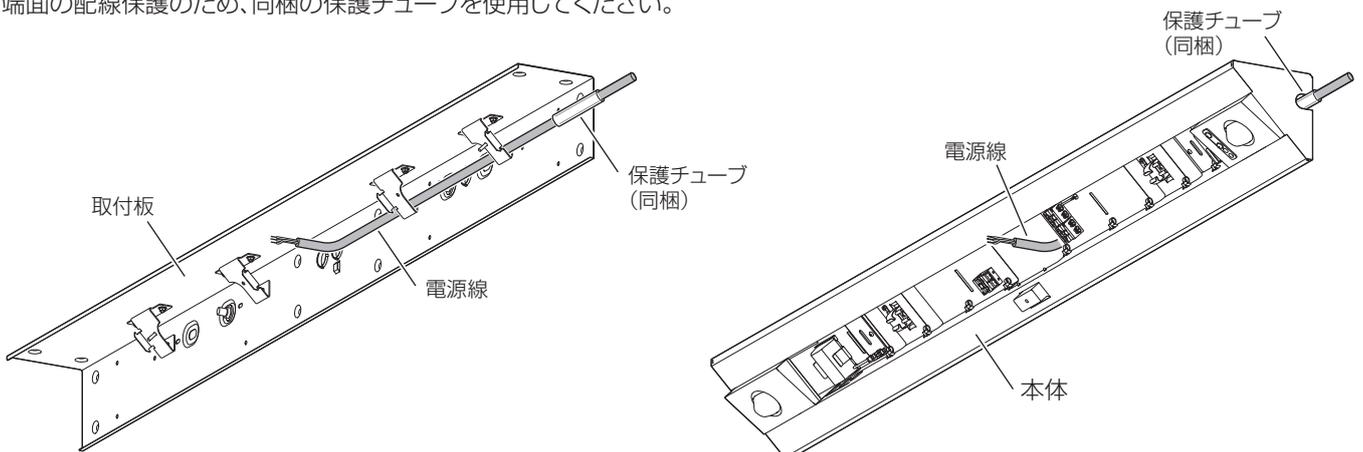


器具背面図

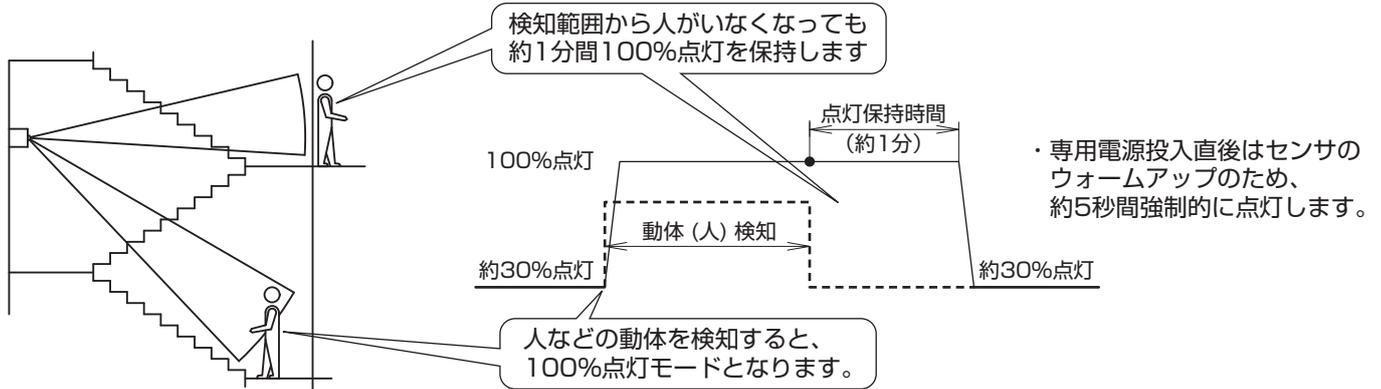


エンドK.O.のご使用について

- ・エンドK.O.(電源用)より電源線を器具内に引き込む際、器具内の電線引き回しは、
下図に従って取付板に電源線を通した後に本体の取り付けを実施してください。
本体取り付けの際は、電源線を噛まないようにご注意ください。
不備があると、器具の故障や感電・火災の原因となります。
- ・端面の配線保護のため、同梱の保護チューブを使用してください。



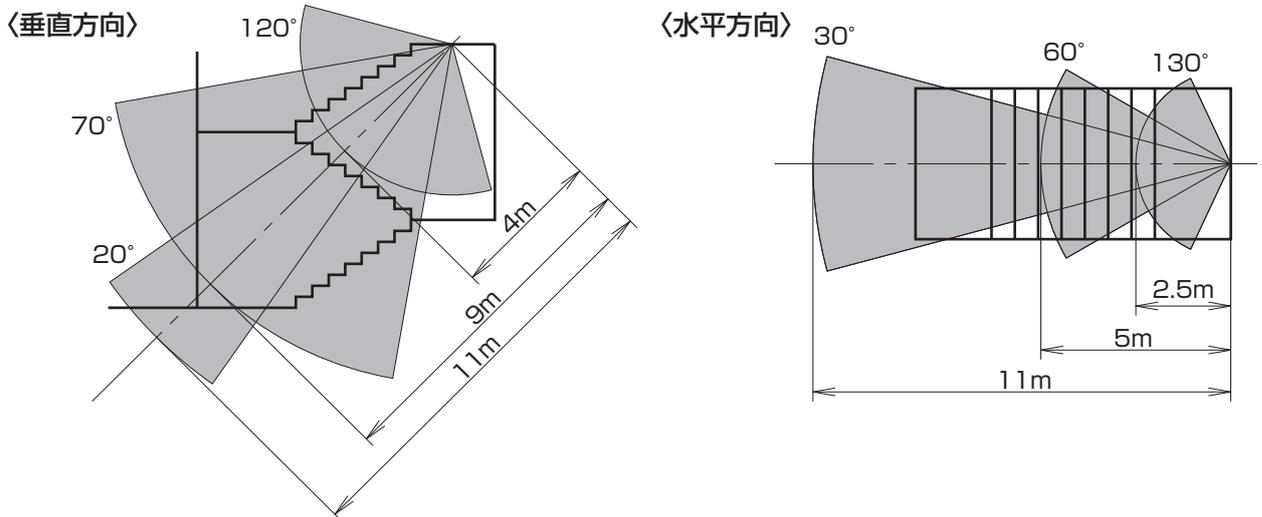
センサ動作説明



センサ検知の注意

センサ検知範囲

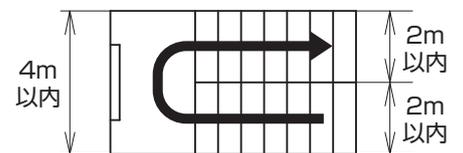
- センサの検知範囲は、センサを頂点とする円錐形の重ね合わせ内です。母線と垂直/水平面への投影時の放射角は下記の通りです。ただし、下記に示す範囲の外側にも達している電波も若干ありますので、検知範囲外の人などをまれに検知することがあります。
- センサは移動体(移動スピード:0.3~2m/sec)を検知するため、静止している場合や動きの小さい場合には、検知しないことがあります。



【注意】

- (1) 階段の幅は2m以内（踊り場の幅は4m以内）としてください。電波がまばらとなり、正常動作しない場合があります。
- (2) この器具（センサ）は動体を検知するため、検知範囲内に下記の機器や動体がある場合、それらを検知して100%点灯となり、期待通りの省エネ効果が得られないことがあります。

- (例)
- ・自動販売機、エアコン、換気扇などの稼働部位
 - ・検知エリア内の照明器具（銅鉄安定器内蔵品）
 - ・ブラインドやカーテンなどの動き
 - ・階段室以外に届く検知エリア内での動体（エレベータのドアの開閉など）
 - ・ガラス窓の外での動体
 - ・人体以外の小動物の動き（虫も含む）



- (3) 特に右表に示す機器は、誤検知の影響とならないようセンサから距離を取って回避してください。
- (4) 屋外に通ずる開放的な階段など、光に誘われて寄ってくる虫が多い階段などへの設置は、推奨できません。
- (5) センサの電波を遮へいする障害物がある場合は、検知できません。
- (6) 振動の強い場所では、建物自体の揺れを検知し100%点灯となり期待通りの省エネ効果が得られない場合があります。

| 対象機器 | センサからの隔離距離 |
|-----------------------|------------------|
| 換気扇 | 検知エリア外 |
| 自動販売機 | 自動販売機から直線距離で3m以上 |
| 銅鉄タイプ蛍光灯安定器 搭載照明器具 | 同照明器具から直線距離で1m以上 |

- (例)
- ・電波を透過する壁材（木材、石膏ボードなど）の背後に動体（エレベータなど）がある場合
 - ・検知エリア内の反射物（金属など）により電波が反射される場合

- (7) センサの検知範囲には制限がありますので、垂直及び水平方向の検知範囲を確認の上設置をお願いします。階段側壁への設置の場合、検知範囲にご注意ください。

センサが正常動作しないときは

表にしたがってお調べいただき、処置を行ってください。

| 現象 | 考えられる原因 | 処置 |
|---------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| ●人がいなくなっても調光状態にならない | 調光線が抜けている | 調光線を接続する |
| | 検知範囲内に人以外の動体がある (5ページ「センサ検知の注意」参照) | 人以外の動体を取り除く |
| | 信号端子の入力がOV | 信号装置を接続する。または電源端子から信号端子へ送りとる。(6ページ参照) |
| ●100%点灯しない | センサの前に障害物がある | 障害物を取り除く |

電源線・信号線の接続方法

- ・システム配線仕様に合わせて、A～Eのパターンより適切な方法で結線してください。
誤結線されますと、火災・感電・破損の原因となります。
- ・電源電圧はAC100～242Vです。
電圧を間違えますと、火災・感電・破損の原因となります。
- ・出荷時は短絡線①および、送り電線②③が接続されています。

センサ機能をOFFにしてご使用(常に100%点灯)の場合は送り電線②③を取り外してください。



警告

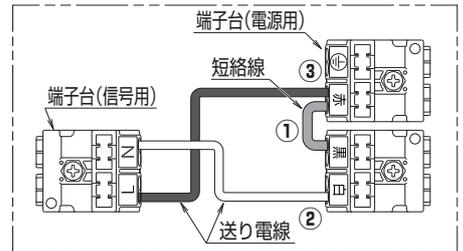
電源線・信号線の接続は、施工説明にしたがい、**確実に**行う。接続に不備があると、火災・感電・破損の原因となります。

出荷時の器具仕様

(注)2点鎖線は器具内を示します。

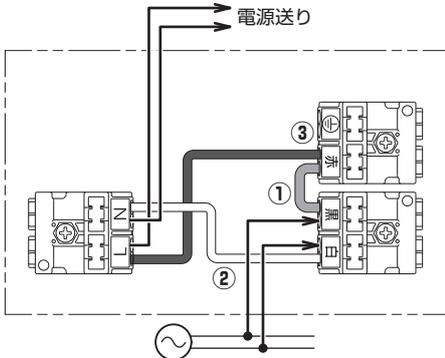
10~14mm

適合電線：φ1.6
(単線) φ2.0



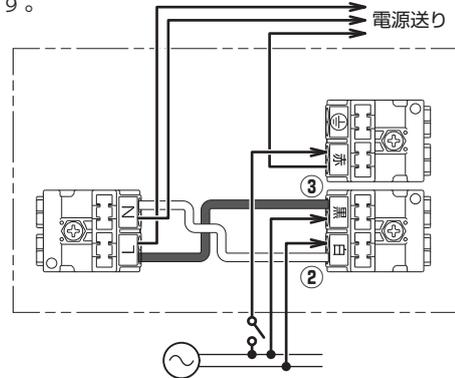
A ・自火報連動による常用光ユニット100%点灯なし ・消灯なし(2線式配線)の場合

- ・①②③を接続したまま、下図の通り接続してください。
<②③を取り外すとセンサが動作しません。>



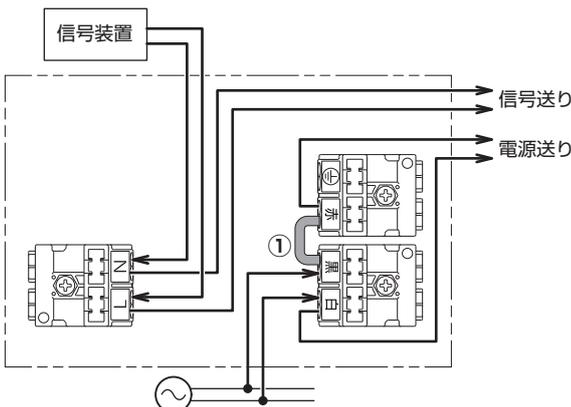
B・C ・自火報連動による常用光ユニット100%点灯なし ・消灯あり(3線式配線)の場合

- ・短絡線①を取り外してください。
- ・下図の通り接続してください。(送り電線③は接続し直してください。)
<②③を取り外すとセンサが動作しません。>
- ・信号装置による消灯の場合はスイッチではなく中継器を用いた配線になります。



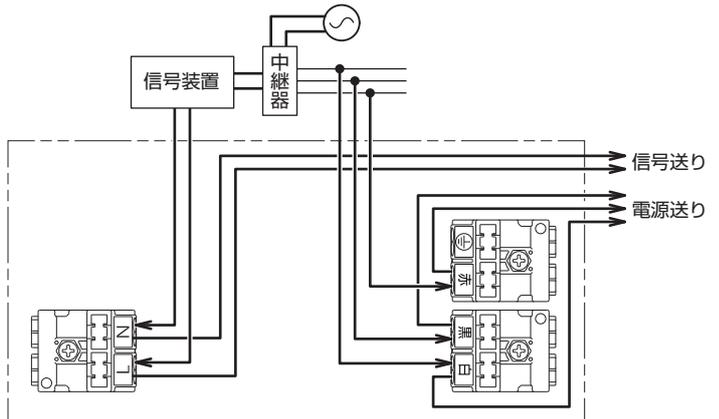
D ・自火報連動による常用光ユニット100%点灯あり ・消灯なし(2線式配線)の場合

- ・送り電線②③を取り外してください。
- ・下図の通り接続してください。



E ・自火報連動による常用光ユニット100%点灯あり ・消灯あり(3線式配線)の場合

- ・短絡線①、送り電線②③を取り外してください。
- ・下図の通り接続してください。



安全に関するご注意

 警告

- 器具、光源部の分解、改造をしない。落下・感電・火災の原因となります。
- 布や紙など燃えやすい物でおおわない。落下・感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、異臭がするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 常用光ユニットの取り付け・取り外しは、必ず電源を切る。感電の原因となります。
- 充電モニタ(緑色)が点滅している場合、通電状態で蓄電池を交換してください。
通電状態でない場合、充電モニタ(緑色)の点滅が正常(点灯状態)に戻りません。
- 製品に衝撃を与えない。破損した場合、感電・火災の原因となります。
万一、破損した場合、すぐに電源を切り交換してください。
- ライトバーが破損した状態で使用しない。落下・感電・火災の原因となります。
- 蓄電池を加熱したり、火や水に投入しない。破裂する危険があります。
- 蓄電池を分解しない。やけど・感電の原因となります。蓄電池内の液は、皮膚や衣類をいためます。
- 落下した蓄電池は使用せず、回収をリサイクル業者に依頼する。
ただし、落下した際にケースが破損した場合は、電極部と金属部分が接触しないよう電気絶縁用ビニルテープで絶縁し、各自治体のルールに従い、廃棄物として処理する。
不備があるとショートによる破裂・やけど・感電・火災の原因となります。

 注意

- 光源として高輝度LEDを使用しています。長時間の直視は避けてください。
- シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で器具を拭かないでください。
変色・変質・強度低下による破損の原因となります。水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
- 照明器具には寿命があります。(※1)
法令に基づいて定期的に点検を実施してください。
点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災などに至る場合があります。
- 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。
3年に1回は工事店等の専門家による点検を受けてください。
必要な場合は弊社営業所へお申し出ください。(チェックシート番号:CLX2021HA)
点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。
- 長時間器具を使用しない場合は、蓄電池は外してください。蓄電池の劣化や短寿命の原因となります。

※1 照明器具は、使用条件、使用環境で異なりますが、8~10年が取り換え時期の目安です。
ただし、蓄電池は、4~6年です。使用条件は周囲温度30℃です。

- 常用光ユニットの光源の寿命は40000時間です。周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合など寿命が短くなります。
点灯出来るからといって継続して使用が可能というわけではありません。

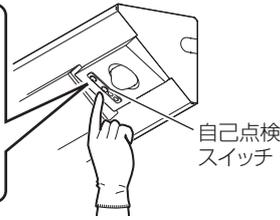
使用上のご注意

- ・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離してご使用ください。
雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
- ・同時通訳機等の誘導無線をご使用になられる場合、雑音が入る場合があります。
事前に確認し、対策を講じてください。
- ・周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- ・LED素子にバラツキがあるため、同一品番でも光色・明るさが異なる場合があります。
あらかじめご了承ください。
- ・点灯直後・消灯直後にプラスチックの伸縮によるきしみ音が発生する場合がありますが、
故障や異常ではありません。
静かな環境でご使用の場合、きしみ音が気になる場合があります。
このような場合は直管LEDなどのプラスチック製カバーのないタイプをおすすめします。
- ・電波を透過する壁材(木材、石膏ボード)の背後にエレベータがある場合や
検知エリア内の反射物(金属など)により電波が反射されるような場所では建物の揺れを検知して
点灯する場合があります。
- ・この器具(センサ)は振動する機器や動体を検知して点灯する場合があります。

充電モニタ(緑)と自己点検スイッチについて

<点検スイッチ部>

点検スイッチ
自己点検スイッチ
充電モニタ(緑)
自己点検用
リモコン受光部



充電モニタ(緑)

蓄電池が充電されているか確認できます。
また自己点検「可」のお知らせをします。

| | | |
|--|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 緑色点灯 | 正常です。 |
| | 点灯しない | ・蓄電池が充電されていません。 ・非常点灯になっていないか、または、蓄電池が外れていないかを確認してください。 ・リモコンの「点検」スイッチまたは「確認」スイッチを押した場合、点検「不可」をお知らせします。 |
| | 緑色点滅 | 蓄電池の交換時期の目安です。 蓄電池の容量低下や異常を緑色点滅でお知らせします。 |
| | 約1秒間緑色点滅(4回) | リモコンの「確認」スイッチを押した場合点検「可」をお知らせします。 |

自己点検スイッチ

- ・蓄電池の容量確認検査が行えます。(判定に30分かかります。)
- ・2秒以上押すと検査を開始します。(充電モニタ(緑)が消灯します。検査終了後は自動的に復帰します。)
- ・自己点検スイッチの動作には、48時間以上の充電が必要となります。(48時間以内に、3秒以上の停電・非常点灯があった場合は点検動作しません。)

自己点検用リモコンについて

適合リモコン品番: FSK90910K (別売)

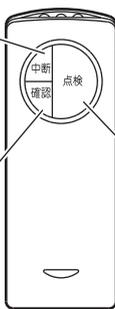
スイッチ各部の名称と働き

「中断」スイッチ

点検動作を中断し、通常状態に復帰させるときに使用します。

①「確認」スイッチ

非常灯器具が48時間の充電が完了しているかを確認するときに使用します。



チャンネル

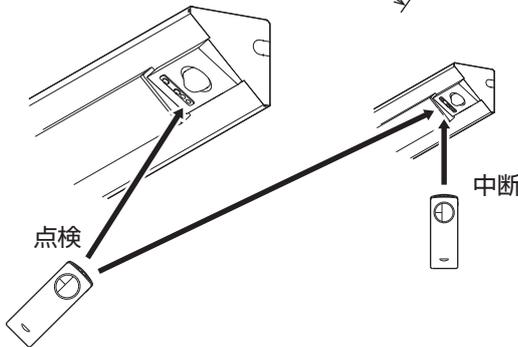
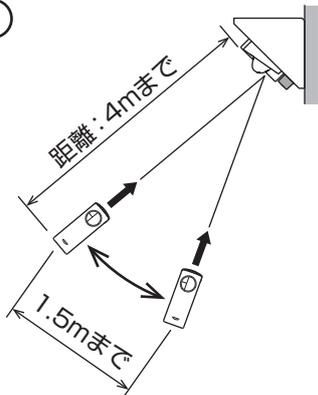
使用時、チャンネルは「2」にセットして下さい。(チャンネル「1」は誘導灯用です。)

②「点検」スイッチ

定格時間の非常点灯確認を開始します。(器具本体の自己点検スイッチを押したときも同様です。)

リモコン操作エリアについて

リモコンを操作するときは右図を参考に、リモコンを器具の受光部に向けて操作してください。



離れた位置からリモコンを操作する場合、隣接する器具も受信してしまうことがあります。その際は隣接する器具の近傍から、リモコンの「中断」スイッチを押して点検を中断してください。

注) 中断した場合は、再度48時間充電が必要です。

リモコンによる点検方法

- チャンネルを「2」にセットしてください。(チャンネル「1」は誘導灯用です。)
- 充電モニタ(緑)が点灯していることを確認してください。

| | |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | リモコンの「確認」スイッチを押してください。 【器具の充電モニタ(緑)を確認してください】 ・充電モニタ(緑)が約1秒間点滅(4回) ⇒点検準備が出来ています。②に進んでください。 ・充電モニタ(緑)が約1秒間消灯 ⇒点検準備が出来ていません。48時間以上充電してください。 |
| 2 | リモコンの「点検」スイッチを押してください。 【器具の充電モニタ(緑)を確認してください】 ・充電モニタ(緑)が消灯(非常点灯に切り換わります) ⇒③に進んでください。 |
| 3 | 蓄電池の容量確認が行えます。(判定に30分かかります。) 【器具の充電モニタ(緑)を確認してください】 ・充電モニタ(緑)が点灯 ⇒ 正常です。 ・充電モニタ(緑)が点滅 ⇒ 蓄電池の交換時期です。 |

- 途中で点検を中断する場合、リモコンの「中断」スイッチを押してください。
【器具の充電モニタ(緑)を確認してください】
・充電モニタ(緑)が点灯(通常状態に戻ります。)

リモコンスイッチと器具状態の対応表

| | 器具の状態 | | |
|----------|----------------------------|------------------------|-------------------------|
| | 充電中 (充電時間48時間未満) | 充電完了状態 (充電時間48時間以上) | 点検中 |
| 「点検」スイッチ | 充電モニタ(緑)約0.5秒間消灯(光源が点灯)(注) | 点検開始(充電モニタ(緑)点灯⇒消灯) | — (充電モニタ(緑)消灯したまま) |
| 「中断」スイッチ | — (充電モニタ(緑)点灯したまま) | — (充電モニタ(緑)点灯したまま) | 点検中断 (充電モニタ(緑)消灯⇒点灯) |
| 「確認」スイッチ | 充電モニタ(緑)約1秒間消灯(注) | 充電モニタ(緑)約1秒間点滅(4回)(注) | — (充電モニタ(緑)消灯したまま) |

— の場合は充電モニタ(緑)の状態に変化はありません。

(注) リモコンスイッチを押し続けると上記の状態を繰り返します。(例: 「確認」スイッチを押し続けると、充電モニタ(緑)が点滅し続けます。)

保証について

- ・保証について……この商品の保証期間は1年間です。但し、LED電源は3年間です。電池などの消耗品は除きます。詳細は弊社カタログをご参照ください。
- ・保証書について……保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。
- ・補修用性能部品……弊社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、6年間保有しています。補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

お手入れ・部品交換

- ・器具の清掃について……水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。変色・変質、強度低下による破損の原因となります。
- ・部品の交換について……下記の指定された部品を使用してください。

【交換部品】

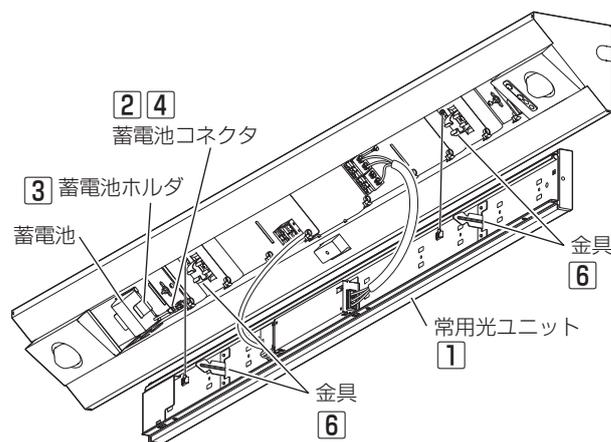
| 器具 | 常用光ユニット | 蓄電池 |
|---------------|---------|----------------|
| NNCF44135 LE9 | FK98534 | FK763 |
| NNCF44155 LE9 | FK98554 | (6.0V 1200mAh) |

警告

- 感電のおそれあり
器具の清掃時は、必ず電源を切ってください。(非常点灯します。)
- カバー破損のおそれあり
常用光ユニットのカバーは樹脂製です。取り扱いに注意してください。
- レンズ破損のおそれあり
非常用光源部のレンズはガラス製です。取り扱いに注意してください。

蓄電池交換方法

- ・充電モニタ（緑）が点滅している場合、通電状態で蓄電池を交換してください。点滅が解除されます。無通電状態で蓄電池を交換した場合は充電モニタ（緑）の点滅が解除されません。
- ・3線式配線の場合、常用光ユニットの電源（壁スイッチなど）を切って作業してください。2線式配線の場合、常用光ユニットが点灯したままとなりますので、光源を直視しない、手袋などの保護を使用し直接光源部に触らないなど安全に配慮ください。

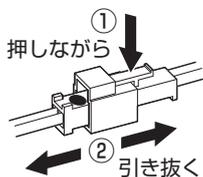


① 常用光ユニットを仮吊りする

- ・常用光ユニットをまっすぐに引き抜いて本体から外し、仮吊り状態にする。

② 蓄電池コネクタを抜く

- 注) 電線を引っ張らないでください。



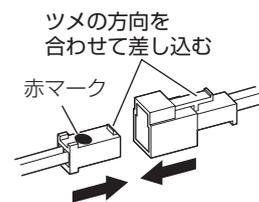
③ 蓄電池を交換する

- ・取り外し…蓄電池ホルダーから蓄電池を引き抜く
- ・取り付け…蓄電池の広い面を蓄電池ホルダーにはめ込む



④ 蓄電池コネクタを接続する

- ・蓄電池コネクタの方向を合わせ、確実に奥まで差し込む。方向を間違えると器具が故障します。接続が不完全な場合、非常点灯不良の原因となります。



⑤ 電池交換年マークを貼り付ける

- ・新しい蓄電池に同梱されている電池交換年マークの該当する年度を、設置年マークの近傍に貼り付ける。

⑥ 常用光ユニットを取り付ける

- ・金具の位置を合わせて常用光ユニットを本体にまっすぐに押し込む。

●手順⑥まで行ったあと、

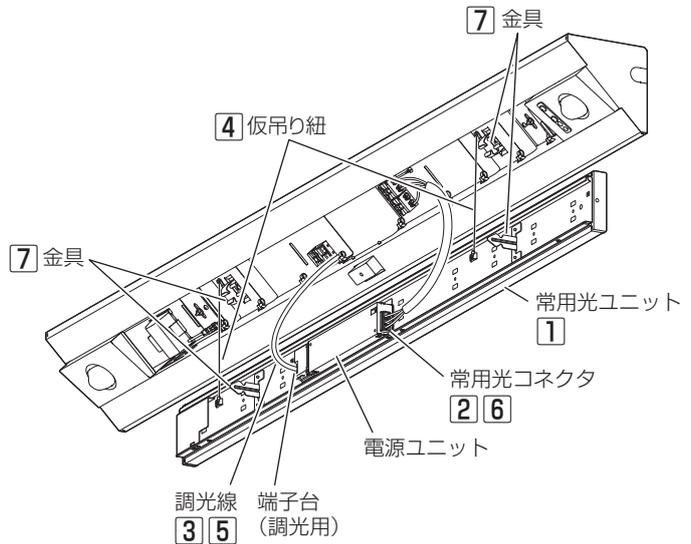
（各部のなまえと取付方法）「10 点灯確認」（4ページ）

以降の手順にて施工してください。

お手入れ・部品交換(つづき)

常用光ユニット交換方法

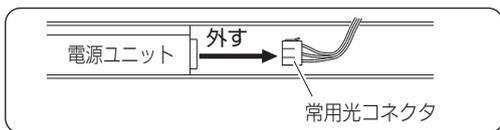
・常用光ユニットの交換時は必ず電源を切って作業してください。(非常点灯します。)
光源を直視しない、手袋などの保護を使用し直接光源部に触らないなど安全に配慮ください。



① 常用光ユニットを仮吊りする

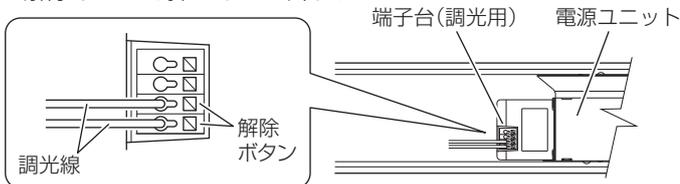
・常用光ユニットをまっすぐに引き抜いて本体から外し、仮吊り状態にする。

② 常用光コネクタを外す



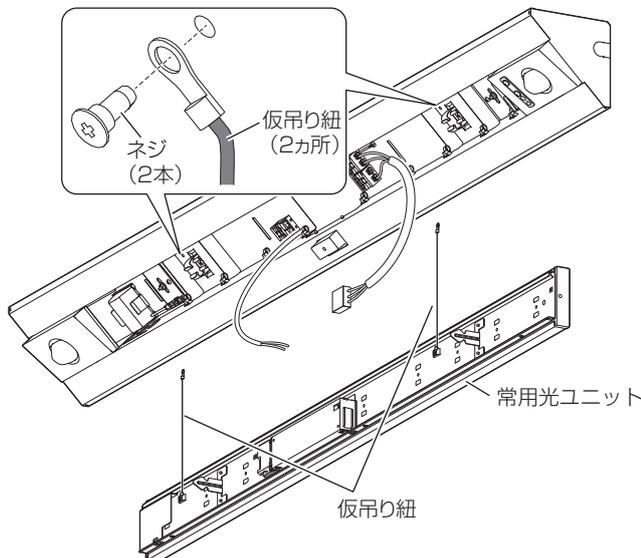
③ 調光線を外す

・解除ボタンを押しながら外す。



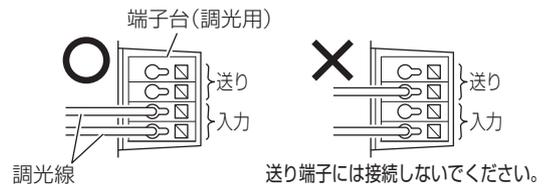
④ 常用光ユニットを交換する

- ① 本体側の仮吊り紐を外し、常用光ユニットを取り外す。
- ② 新しい常用光ユニットの仮吊り紐を本体に固定する。
 - ・仮吊り紐の固定は新しい常用光ユニットに同梱されているネジ(2本)を使用してください。



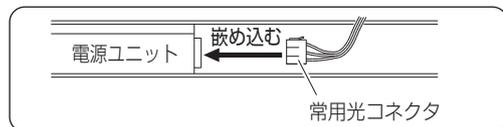
⑤ 常用光ユニットに調光線を接続する

・端子台(調光用)の入力端子に、調光線を確実に差し込む。
・調光線に極性はありません。接続が不完全な場合、火災の原因となります。



⑥ 常用光コネクタを接続する

・常用光コネクタを『カチッ』と音がするまで確実に嵌め込む。
接続が不完全な場合、火災の原因となります。



⑦ 常用光ユニットを取り付ける

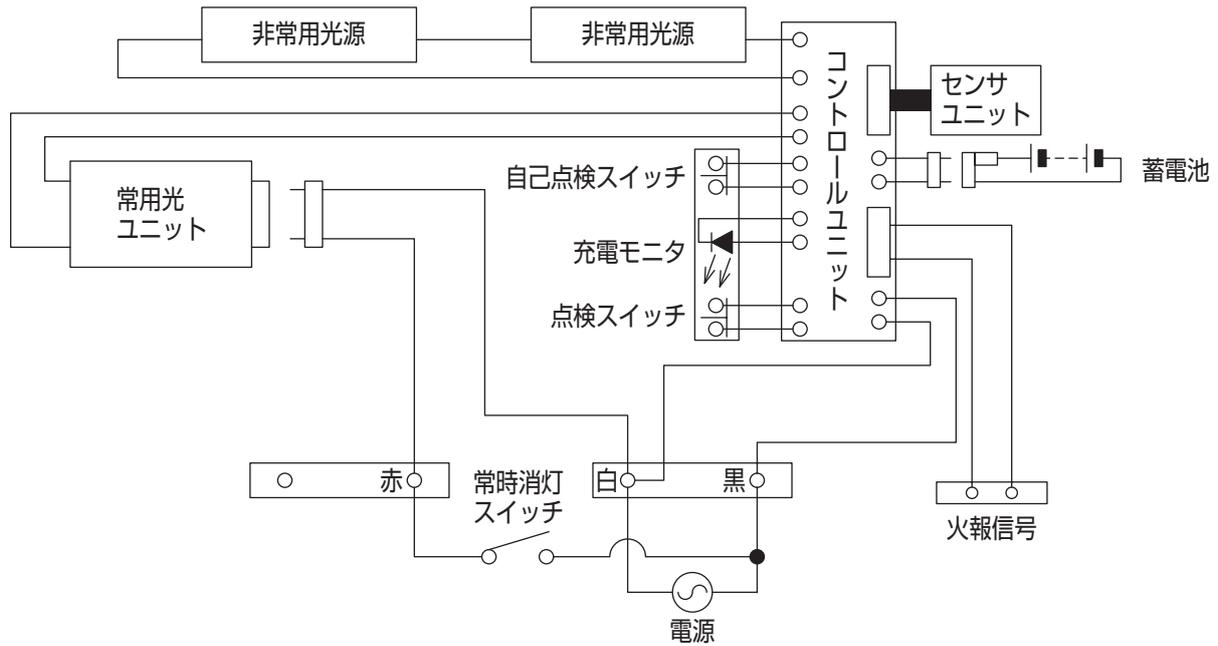
・金具の位置を合わせて常用光ユニットを本体にまっすぐに押し込む。

●手順⑦まで行ったあと、

各部のなまえと取付方法「9 電源の通電」(4ページ)

以降の手順にて施工してください。

器具定格・接続図



| 品番 | NNCF44135 LE9 | | |
|--------|---------------|--------|--------|
| 明るさタイプ | Hf32形 1灯相当 | | |
| 定格電圧 | AC100V | AC200V | AC242V |
| 入力電流 | 0.308A | 0.154A | 0.127A |
| 入力電力 | 29.6W | 29.6W | 29.6W |
| 待機電力 | 10.7W | 10.7W | 10.7W |

| 品番 | NNCF44155 LE9 | | |
|--------|---------------|--------|--------|
| 明るさタイプ | Hf32形 2灯相当 | | |
| 定格電圧 | AC100V | AC200V | AC242V |
| 入力電流 | 0.472A | 0.236A | 0.195A |
| 入力電力 | 46.0W | 46.0W | 46.0W |
| 待機電力 | 15.6W | 15.6W | 15.6W |


Ni-MH
 この器具は、“ニッケル水素電池”を使用しております。ご使用済みの“ニッケル水素電池”は貴重な資源です。再利しますので、廃棄しないで電池パックのまま充電式電池リサイクル協力店へお持ちしていただくか、または“一般社団法人JBRC”に依頼してリサイクルしてください。